

KARIYA CITY 2023 → 2042

FUTURE

NAVI

第8次刈谷市総合計画

KARIYA CITY 8TH COMPREHENSIVE PLAN

3

第3編

基本計画

## 01

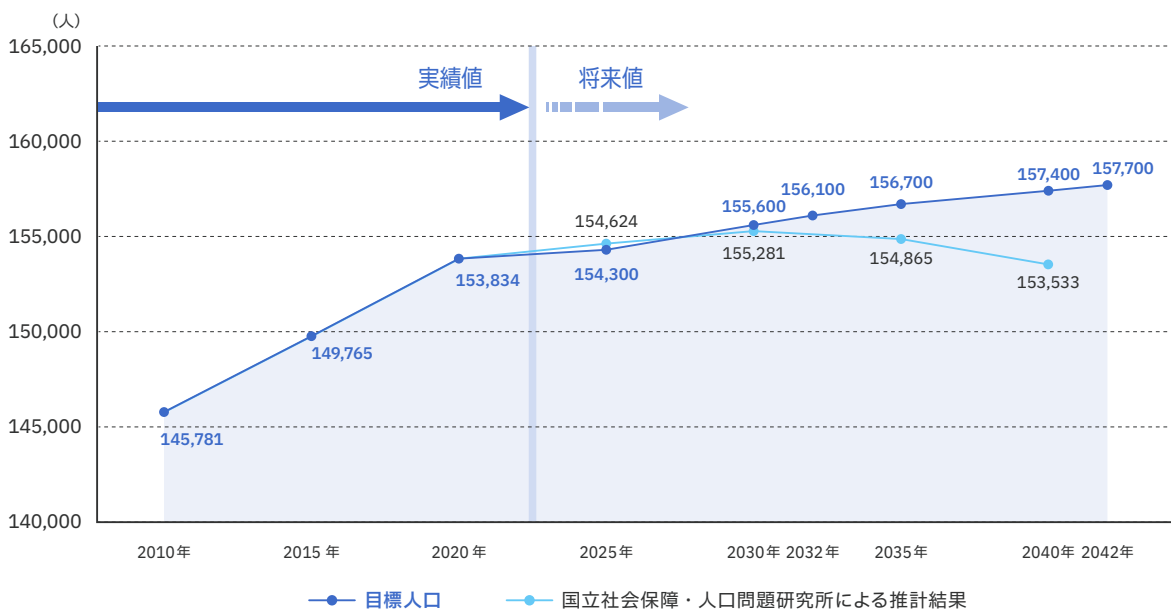
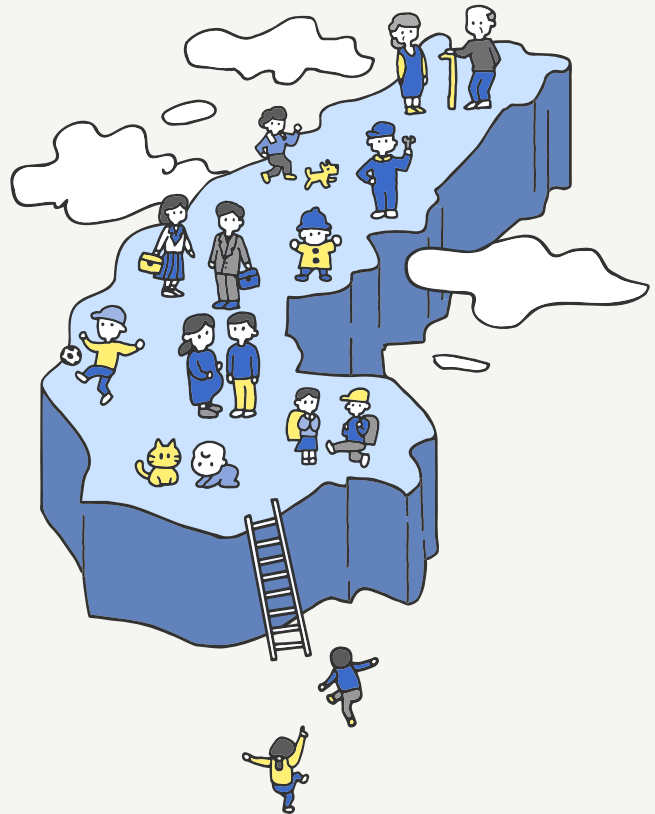
## 基本フレーム

## 人口の見通し


[▶ 動画で詳しく](#)
 目標人口

国立社会保障・人口問題研究所が新型コロナウイルス感染拡大前の平成30年（2018年）3月に公表した推計では、本市の人口は、令和12年（2030年）にピークを迎え、その後は減少に転じることが予測されています。

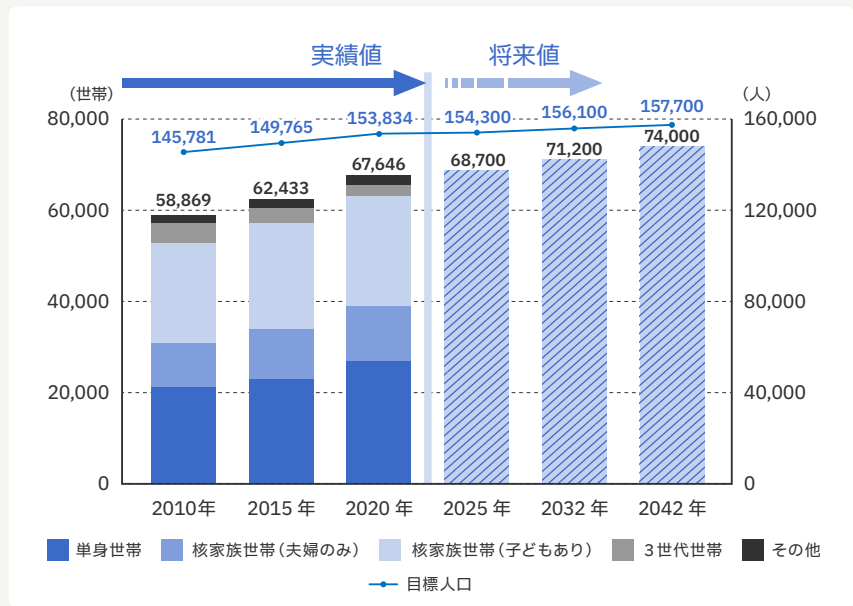
それに対して、新型コロナウイルスの影響を考慮した本市の推計では、ウィズコロナの状況下であっても人口が増加傾向にあるため、今後も働きやすく住みやすいまちづくりの推進や定住の促進、出生率の向上などを図ることにより、継続的な人口の増加をめざすこととし、目標年次である令和14年（2032年）の目標人口を、令和2年（2020年）よりもおよそ2千人の増加を見込み、156,100人と設定します。



## 世帯数

本市の世帯数は、令和2年（2020年）では、67,646世帯となっています。

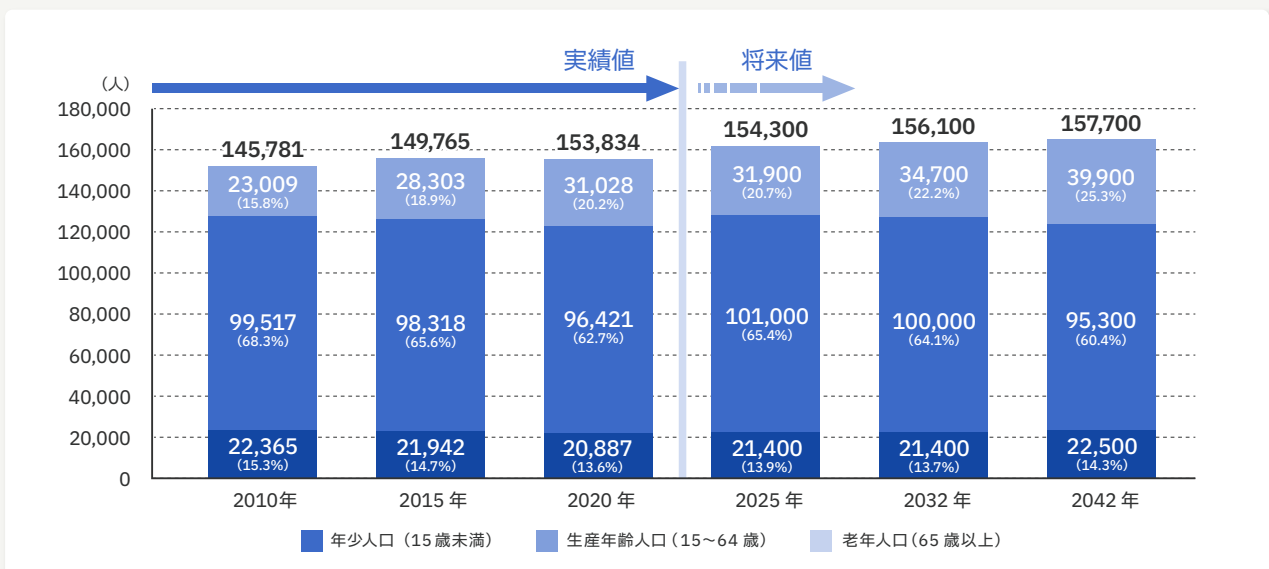
今後も単身世帯や夫婦のみ世帯の増加などにより世帯の小規模化が継続することを見込み、目標年次である令和14年（2032年）には、令和2年（2020年）よりもおよそ4千世帯多い71,200世帯になると想定しています。



## 年齢3区分別人口

本市の年齢3区分別人口は、令和2年（2020年）では、年少人口（0～14歳）が20,887人（総人口に対する構成比13.6%）、生産年齢人口（15～64歳）が96,421人（62.7%）、老年人口（65歳以上）が31,028人（20.2%）となっています。

今後も、少子高齢化が進行することが見込まれ、目標年次である令和14年（2032年）には、年少人口が21,400人（13.7%）、生産年齢人口が100,000人（64.1%）、老年人口が34,700人（22.2%）になると想定しています。



※ 2010年、2015年及び2020年は国勢調査の結果を記載しており、年齢不詳者がいるため年齢3区分人口の合計と総数は一致しない。

## 就業人口

本市の就業人口は、令和2年（2020年）の国勢調査では75,388人、就業状況不詳者を除いた15歳以上人口に対する就業率は65.9%となっています。就業人口の見通しとしては、高齢化の進行に伴い、人口の伸びに対して緩やかに増加し、目標年次である令和14年（2032年）には就業率が65.8%になると想定しています。

産業別では、第1次産業は緩やかな減少傾向に

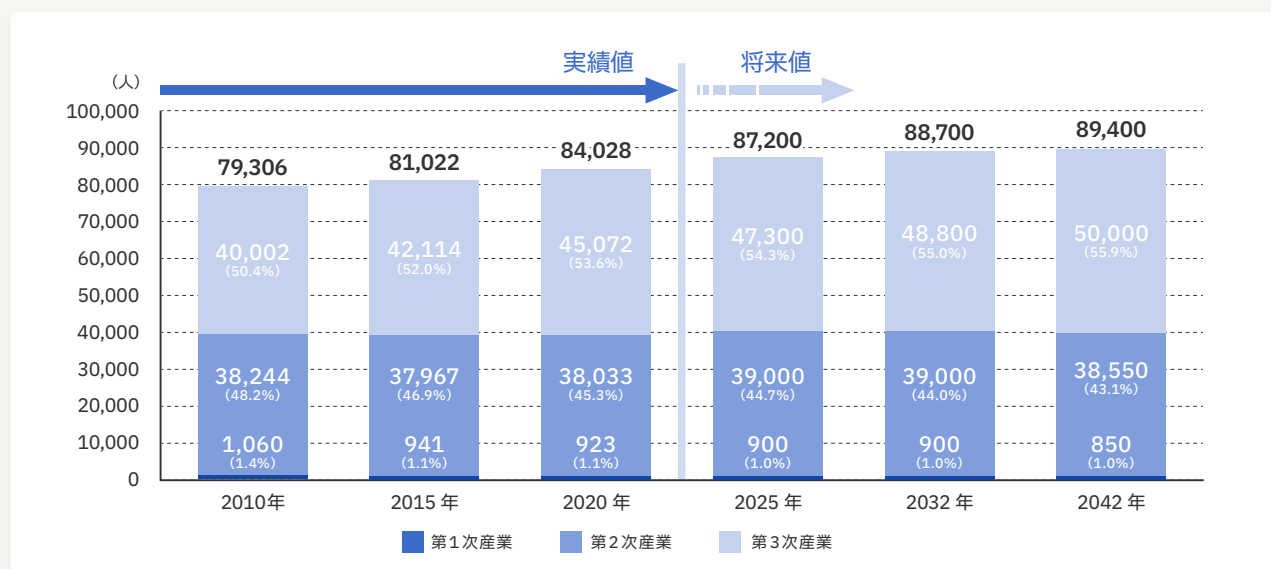
あり、第2次産業はほぼ横ばいで推移すると見込まれ、令和14年（2032年）には、第1次産業は900人（総就業人口に対する構成比1.0%）、第2次産業は39,000人（44.0%）になると想定しています。また、第3次産業は増加傾向にあり、今後もこうした傾向が続くと見込まれ、令和14年（2032年）には48,800人（55.0%）になると想定しています。

### 就業状況の推移

	2010年	2015年	2020年
15歳以上人口	122,526	126,621	127,449
就業者	76,873	77,217	75,388
業状況不詳（按分）	2,433	3,805	8,640
失業者	3,043	1,997	2,123
就業状況不詳（按分）	96	98	243
学生等	38,851	41,460	36,834
就業状況不詳（按分）	1,230	2,043	4,221
就業状況不詳	3,759	5,947	13,104

資料：国勢調査

### 就業人口の見通し



※就業状況不詳及び分類不能を按分した数を含む

# 土地利用計画



▶ 動画で解説 

## 01 土地利用の基本的な方向性

本市のめざす将来都市像の実現に向け、土地利用構想の考えのもと、以下に掲げる3つの基本的な方向性により土地利用を推進していきます。

### 本市固有の地域資源や特性をいかし都市の活力を高める土地利用の推進

本市には、世界をリードする自動車関連産業の集積、日本有数の集客力を誇る刈谷ハイウェイオアシス、亀城公園周辺地域に残る文化財や歴史的建造物など、活力創出やまちづくりの核となりうる地域資源が豊富に存在しています。都市間競争が激しさを増す中で、本市固有の地域資源の質を高め、最大限にいかした土地利用を進めることで、持続的に発展するまちの実現をめざします。

また、スマートインターチェンジやリニア中央新幹線、広域幹線道路などを始めとした広域交通体系の充実は、ヒト・モノ・カネ・情報の広域的な移動を促し、多様な機能の立地ポテンシャル

を高めることから、活発な産業活動の更なる発展や広域的な交流によるにぎわいの創出、中心市街地の魅力向上などを視点に、本市の地域特性を踏まえた土地利用を進めます。

さらに、子育て世代の定住を促し、人口の世代間バランスを確保するため、魅力的な施設が立地し、社会インフラが整った利便性の高いまちなかでの暮らしから、自然を身近に感じ快適でゆとりのある郊外での暮らしまで、多様化するライフスタイルや価値観に応じた、居住地を選択できるまちづくりを進めます。

### 誰もが暮らしやすい安心快適な都市構造の構築

本市が将来にわたって持続可能な都市であるためには、鉄道駅周辺などの既成市街地における拠点機能の強化、地域特性に応じた土地利用の誘導を推進することにより、これまでの人口増加、経済成長を前提とした都市構造から、将来的な人口減少、超高齢社会に対応した都市構造への転換を長期的な視点に立って進めていく必要があります。

そのため、商業や文化、医療などの高次都市機能が集積する刈谷駅周辺を本市の都市活動の中心的な拠点として位置づけ、多様な都市機能や都市基盤施設の強化・再編などを図り、本市の玄

関口としてふさわしいまちづくりを進めます。

また、逢妻川と猿渡川によって3つの地域に分かれている本市の地理的特性を踏まえ、それぞれの地域に立地する鉄道駅周辺などを、それぞれの地域の核となる地域拠点と日々の暮らしに必要なサービスの提供を図る生活拠点に位置づけ、地域ごとの特色をいかしたまちづくりを進めます。

さらに、拠点間を結ぶ公共交通や主要な道路を軸として位置づけ、交通ネットワークの形成・機能強化により、一体の都市として持続可能な集約・連携型の都市構造の構築を進めます。

## 豊かな自然環境に配慮した土地利用の推進

北部や南部地域を始めとする市街地周辺に広がるまとまりのある優良農地の維持・確保に努めるとともに、農業の担い手を育成し農地の集積を進めることで農業経営規模の拡大を促します。また、農地は近年多発している集中豪雨時における遊水地的機能のほかに、防災空地機能、景観形成機能など、生産機能以外にも大きな役割を果たしていることから、適切に維持・保全に努めます。その他、市街地内に残る農地は、本市の旺盛な宅地需要を背景に住宅地としての活用が望まれる一方で、オープンスペースや農業体験の場など、日々の暮らしの質を高める場として多様な機能を持っていることから、本市の実情を踏まえつ

つ良好な都市環境の形成に向け保全に努めます。

また、本市は、境川、逢妻川、猿渡川などの河川や北部のため池群、小堤西池のカキツバタ群落、井ヶ谷丘陵地の樹林など、豊かな自然環境に恵まれています。このような自然環境は、市民や来訪者に潤いや安らぎを与えてくれる貴重な財産であることから、行政だけでなく様々な主体との協働により保全を図ります。さらに、新たな緑の創出に向け、公園や緑地の整備を進めるとともに、地域の特性を踏まえ、市民や事業者との協力のもと、公共施設や民有地内における緑化の推進を図ります。

## 02 ゾーン別土地利用

地域特性に応じたメリハリのある土地利用を推進するために、都市的土地利用と自然的土地利用の健全な調和を保ちつつ、以下のゾーンに区分します。

### 住居ゾーン

市街化区域の住居系の土地利用が図られている既成市街地や市街化区域に隣接・近接している市街化調整区域のまとまりのある集落などを住居ゾーンとして位置づけ、良好な住環境の維持・確保を図ります。

### 商業ゾーン

刈谷駅から刈谷駅周辺の中心市街地及びその他の鉄道駅周辺を商業ゾーンとして位置づけ、商業・オフィス機能の集積を図るとともに、日常生活の利便性の向上をめざします。特に、中心市街地では、多様な機能の集積とともにまちなか居住の促進に向けて、土地の高度・有効利用を図ります。

### 沿道ゾーン

(都)国道155号線や(都)岡崎刈谷線沿道を沿道ゾーンとして位置づけ、周辺の良い住環境の確保を基本に、身近な商業・オフィス機能を集積させることにより、日常生活の利便性向上を図ります。

### 住工混在ゾーン

市中心部の工業ゾーン周辺の住宅と工場が混在している区域を住工混在ゾーンとして位置づけ、既存工場の土地利用転換を促進することにより、地域特性に応じた良好な住環境の確保を図ります。

### 工業ゾーン

既存工場がまとまって立地している区域などを工業ゾーンとして位置づけ、住宅地との混在防止や周辺環境に配慮しながら、工業・オフィス・物流機能の維持・発展を図ります。

### 農地保全ゾーン

北部や南部地域に存在するまとまりのある優良な農地の区域を農地保全ゾーンとして位置づけ、食料供給の場にとどまらず、保水や景観など生活にゆとりを与える場として保全を図ります。

### 緑地保全ゾーン

井ヶ谷丘陵地の樹林地や亀城公園周辺の区域などを緑地保全ゾーンとして位置づけ、水辺や緑地などの貴重な自然環境の保全を図ります。

